

## シーバードジャパン登録拠点

拠点名	登録団体
シーバード 小樽	石狩湾マリンレジャー安全対策連絡会議分科会「レスキュー部会」
シーバード 釜石	釜石ライフセービングクラブ
シーバード 気仙沼	気仙沼ライフセービング
シーバード さがえ	NPO法人 スペース・アンド・タイム・クリエーション
シーバード 猪苗代	猪苗代湖船舶安全協会内「猪苗代湖を守る会」
シーバード 千代田	(有)DO SPEED
シーバード 水の郷さわら	水の郷さわら
シーバード にいがたPort	有限会社 ドッグマリン
シーバード 佐渡	一般社団法人SKF
シーバード 館山	館山市 経済観光部 観光みなと課
シーバード 富津	富津岬をまもる会
シーバード 江戸川	MG MARINE
シーバード 小網代	(株)リビエラリゾート シーボニアマリーナ
シーバード 葉山	NPO法人 葉山ライフセービングクラブ
シーバード 逗子	NPO法人 湘南海上安全協会
シーバード 西浜	NPO法人 西浜サーフライフセービングクラブ
シーバード サーフ90藤沢	NPO法人 サーフ90藤沢ライフセービングクラブ
シーバード 茅ヶ崎	サーフ90茅ヶ崎ライフセービングクラブ
シーバード 三保	NPO法人 PW安全協会 静岡支部
シーバード 相良	水難救済会相良救難所本部
シーバード 御前崎	一般社団法人 御前崎スマイルプロジェクト・JPWA/渚の交番
シーバード 掛川	掛川市役所商工観光課観光交流係
シーバード よどがわ	NPO法人 PW安全協会 大阪支部
シーバード びわこワニ浜	(株)デッキワーク
シーバード あわじ	ブルーラインアワジ
シーバード 竹原	(株)二葉 マリンウェーブ竹原
シーバード 安芸	安芸ライフセービングクラブ
シーバード 広島・太田川	ミヤママリーナ (株)エム・シー・エム
シーバード 隠岐	隠岐マリンスポーツ振興協議会
シーバード 浜田	NPO法人 浜田ライフセービングクラブ/
シーバード コバルト	NPO法人 コバルトブルー下関ライフセービングクラブ
シーバード 豊北	サーフサイド
シーバード 阿波	徳島 ライフセービングクラブ
シーバード 松山	クロスオーヴァー
シーバード あいなん	あいなんかわうそむら海の駅 マリンスポーツ部門
シーバード 芸西村	芸西村消防団
シーバード さめうら	NPO法人 さめうらプロジェクト
シーバード 壱岐	壱岐マリーナ
シーバード むなかた	NPO法人 赤とんぼ内 宗像ライフセービング
シーバード 筑前あしや	芦屋地区小型船安全協会
シーバード 福岡	福岡サンセットショアライフセービングクラブ
シーバード 新宮	NPO法人 新宮ライフセービングクラブ
シーバード 博多	マリクラブネイビー
シーバード 伊万里	NPO法人 伊万里湾小型船舶安全協会
シーバード 有明	太良町役場社会教育課
シーバード 肥後ながす	くま愛 f リーグ【町おこし隊】/消防団長洲町9分団
シーバード あしきた	熊本県立あしきた青少年の家
シーバード 田ノ浦	大分ライフセービングクラブ
シーバード 高鍋	NPO法人 児湯・高鍋ライフセービングスポーツクラブ
シーバード ーツ葉	宮崎ジェットマリン (有限会社尾崎商会)
シーバード 青島	NPO法人 宮崎ライフセービング
シーバード かごしま iso	(一社)鹿児島県ライフセービング協会



# シーバードJAPANカレッジ 2022



### ■シーバードプロジェクト推進団体

特定非営利活動法人 パーソナルウォータークラフト安全協会

■シーバードジャパン事務局：株式会社 らいどう2 内 東京都港区西麻布1-8-6杉下ビル 302 〒106-0031





シーバードのミッション

# 地域・現場に根差す

地域・生活者・水辺の利用者の声に真摯に耳を傾ける

# 多様な人との協調

常にオープンな姿勢 様々な人と積極的に交わる

# 常に次世代を想う

水辺の素晴らしい環境を未来に繋ぐ

# 倫理観と専門性

事故を防ぐ・人を守る・助ける高い倫理観と専門性

シーバードプロジェクトは、以下の団体のご協力のもと、  
パーソナルウォータークラフト安全協会が推進しています。



特定非営利活動法人 パーソナルウォータークラフト安全協会 (PWSA)



公益財団法人 日本財団  
PWSAとともにシーバードジャパンの施策を協議し、推進をサポートします。



特定非営利活動法人 日本青バイ隊  
シーバード活動の発祥地(佐賀県伊万里)・団体としてシーバードジャパンをサポートします。



一般社団法人 ウォーターリスクマネジメント協会  
シーバード隊員に水上オートバイを用いた救助技術の習得を促進します。

## シーバードジャパン 52拠点 2022年10月現在





# 海に感謝 シーバードデイ2022

2022年度拠点活動の主要施策として展開するシーバードデイ2022は、「海に感謝」を主題に“遊び、学び、出会い”をした海に感謝の気持ちを込めて、「海浜、水辺の清掃」と「水上オートバイの体験」のふたつを軸に取組んでいただきました。小学生以下の子どもを対象に「水上オートバイ+子どもの笑顔」の写真を募集。今年度は拠点からの実施申請のうち、台風による中止がありましたが多数のレポートが寄せられています(集計中)。レポートは順次、シーバード公式サイトに掲載しています。

## 福岡県4拠点合同開催

### 2022 ミス日本 海の日をはじめ歴代受賞者がボランティア参加

9月24日(土)シーバード博多の活動拠点である福岡マリーナ(福岡県福岡市)を会場に、福岡県のシーバード博多、むなかた、新宮、福岡の4拠点は合同でシーバードデイを実施しました。この取組はシーバードジャパン本部の支援事業として、ミス日本海の日の属(さっか)安紀奈さんをはじめ歴代の5名の受賞者がボランティア参加し、運営にあたりました。

- ミス日本協会 歴代受賞参加者
- 属 安紀奈 2022ミス日本海の日
  - 横山 莉奈 2022ミス日本水の天使
  - 三上 優 2017ミス日本海の日
  - 杉浦 琴乃 2016ミス日本海の日
  - 飯塚 帆南 2016ミス日本みどりの女神

9月24日(土)シーバード博多の活動拠点である福岡マリーナ(福岡県福岡市)を会場に、福岡県のシーバード博多、むなかた、新宮、福岡の4拠点は合同でシーバードデイを実施しました。この取組はシーバードジャパン本部の支援事業として、ミス日本海の日の属(さっか)安紀奈さんをはじめ歴代の5名の受賞者がボランティア参加し、運営にあたりました。

9月24日(土)福岡県北部は夏の日差しに恵まれ、会場の福岡マリーナには、子供30名余と保護者を含め約50名が来場。全員での海浜清掃、水上オートバイ体験、ライフセービング体験、ヘリ救助体験の四つのプログラムで「海に感謝シーバードデイ2022」を開催しました。海上保安庁第七管区海上保安本部、福岡ライフセービングクラブ、おやじの会:きらく会、福岡マリーナのご協力の元、シーバード「博多」「むなかた」「福岡」「新宮」の4拠点合同で実施しました。

今回の特筆エピソードは、ミス日本協会の協力で、2022ミス日本海の日 属安紀奈(さっか あきな)さんをはじめ5名の歴代受賞者がボランティア参加、運営スタッフとして海岸の清掃ゴミ拾いから、子供たちのガイド、きらく会が調理した焼きそばの盛り付けなどにあたっていただいたことです。子供たちやきらく会のメンバーもこれまでにない盛り上がりを見せていました。正直、準備段階ではどうなるかと一抹の不安もありましたが、子供たちとの触れ合い、みんなの笑顔を見て当初の不安もすぐに霧散しました。ご協力に感謝申し上げます。

またシーバードあわじから視察に来られた節和様にはドローンでの撮影をしていただきました。ありがとうございます。「うちのほうでもこうしたイベントを実施したい、勉強になります」とのお言葉をいただき、ほっとしています。拠点合同、横つなぐりの成果のひとつではないかと実感しました。

最後になりましたが、続く台風で被災された地域、拠点のみならず一日も早い復興、復活を祈念しております。災害日本ではありますが「海に感謝」を胸にこれからも活動していきます。

シーバード博多、福岡、むなかたの皆さん、ライフセービングクラブの仲間たち、ありがとうございます。

運営リーダーシーバード新宮:田原幸佑



### シーバードデイ2022実施推奨日9月24日の?

【国際ビーチクリーンアップデー】アメリカ・サンフランシスコに本部のあるNGO「オーシャン・コンサーバンシー(Ocean Conservancy)」が1985年(昭和60年)9月22日に実施以来、この日に近い週末に、世界各地で一斉に海岸のごみを拾い集め、その数量・種類などを調べることによって、海洋でのゴミの発生元や、地球環境への影響を調査しています。日本では「クリーンアップ全国事務局」(Japan Environmental Action Network: JEAN)が主宰しています。シーバードデイ2022はこの活動に賛同して実施推奨日としています。

## 全国では35拠点が参加

～9月24日(土)実施申請は17拠点

シーバードデイ実施推奨日として設定した9月24日の実施は17拠点から申請がありましたが、台風15号によって、複数の拠点事業が中止となりました。福岡同様にミス日本各賞歴代受賞者の応援も決まっていた神奈川県・江の島での、拠点合同(シーバード西浜、葉山、館山、富津)シーバードデイも見送られました。

### 海に感謝 シーバードデイ2022

◆9月24日実施申請17拠点

地域	シーバード拠点名
群馬県	シーバード千代田
千葉県	シーバード水の郷さわら
	シーバード富津
	シーバード館山
神奈川県	シーバード西浜
兵庫県	シーバードあわじ
山口県	シーバードコバルト
	シーバード豊北
高知県	シーバードさめうら
福岡県	シーバードむなかた
	シーバード博多
	シーバード福岡
	シーバード新宮
大分県	シーバード田ノ浦
熊本県	シーバードあしきた
宮崎県	シーバードーっ葉
鹿児島県	シーバードかごしまiso

◆一般日実施申請18拠点

地域	シーバード拠点名
北海道	シーバード小樽
岩手県	シーバード釜石
宮城県	シーバード気仙沼
新潟県	シーバード佐渡
千葉県	シーバード館山
	シーバード富津
	シーバード江戸川
神奈川県	シーバード小網代
	シーバード葉山
	シーバードサーフ90藤沢
	シーバード茅ヶ崎
大阪府	シーバードよどがわ
佐賀県	シーバード伊万里
	シーバード有明
長崎県	シーバード舌岐
熊本県	シーバード肥後ながす
宮崎県	シーバードーっ葉

### シーバード気仙沼・釜石～いのちをまもる勉強会

<8月20日(土)宮城県気仙沼市 小田の浜海水浴場>

シーバードデイ2022「いのちをまもる勉強会」を実施しました。東北の夏は短いことから、来場者への水温の低さによる負担軽減を考慮して、8月20日(土)に設定。シーバード気仙沼・シーバード釜石合同で準備から運営にあたりました。

シーバード隊員参加人数:8名(気仙沼3名・釜石5名)、来客:61名(うち子ども37名)の参加規模で、「いのちをまもる勉強会」と題して、心肺蘇生法ブースにて心肺蘇生の一連を体験していただいた後に、ライフジャケットの正しい着用について実演説明し、正しく着用されていること確認したうえで体験乗船する流れです。曇りのち雨という天候でしたが、心肺蘇生法、ライフジャケットの着用、水上オートバイ乗船とそれぞれ初めて体験するという方が多く、学びと楽しみを両立した非常に活気のあるイベントとなりました。体験乗船が終わった後、飽き足りない様子の方には、再乗船OKと声掛けして、多い方では3回も乗船し大いに楽しんでいただきました。

釜石は8月14日に、気仙沼は8月21日に海水浴場の開設期間を終え、今年の夏も事故無く多くのお客さんに海水浴を楽しんでいただきました。これからもより多くの市民を迎え、事故ゼロを目指して、訓練を継続、強化して参ります。





■シーバード葉山～大人も子供も 楽しく一学ぼう

<10月1日(土) 神奈川県葉山町、森戸海岸>

シーバードデイ“大人も子供も 楽しく一学ぼう”を開催しました。毎週末のように台風がやっていますし、10月開催なので、とにかくお天気がどうなるか。隊員一同で気にしていましたが、当日は晴天に恵まれ、ちょっと暑いくらいでした。

今回のシーバードデイでは、水上オートバイで海の楽しさを体験に加え、水辺の安全や環境についてもみんなで一緒に勉強しました。中学生以上(15名)は、(公)日本ライフセービング協会のウォーターセーフティ講習を受講。水辺の事故の現状や、どのような場所で事故が起こっているのか、水辺の知識などを学びました。小学生以下の子供たち(6名)は、「水上オートバイが吸い込んでしまうと大変なゴミはないかな?」とビーチクリーンを行い、ライフセービング競技の一つであるビーチフラッグならぬ、ビーチサンダル争奪競争をして楽しみました。

午後は、水上オートバイの進む仕組みなどを学んだあと、子供たちはお楽しみの水上オートバイ乗船体験。スピードや水しぶきに“キャーキャー”と元気な声が上がっていました。中学生以上は、浮き身の取り方など、水の中での身のこなし方を実技練習。みんなしっかり立ち泳ぎが出来るようになりました。ライフセービングのトレーニング体験も頑張りました。



最後の1時間は、大人も子供も一緒に水上オートバイに乗りました。今回使用しているシーバード艇には、レスキューレッドという救助の際に使用する大きなビート板のようなものもついているので、大人の人には、救助役の体験もしてもらいました。

海はとても楽しいところ。水上オートバイも機動性が高く、スピード操縦性能にも優れています。しかし、きちんとした知識なしに、海に入ってしまうと、思いがけない事故になってしまう事があります。今回は、楽しい体験と必要な知識を習得することのできる良い機会になりました。

シーバードデイ開催にあたり、隊員に新しいメンバーが加わりました。彼女は、2週間前にウォーターセーフティ講習を初めて受けた受講生でしたが、ウォーターセーフティ講習で学んだことをしっかり生かし、子供達のフォローをしてくれました。また、縁の下の力持ち、隊員の一人は、一緒に参加者と海に入るのをぐっとこらえて、一歩引いたところから、常に参加者が安全に楽しめているかを監視してくれました。多くの隊員の協力もあり、無事にイベントを行うことが出来ました。

開催告知は、近隣の学童やサーフショップなどが協力してくれました。今後も地域との連携を図りながら、多くの方に我々の活動を知ってもらい、そして体験し、仲間になってもらいたいと考えています。

■シーバードさめうら～大川の子☆さめうらチャレンジ

<9月24日(土) 高知県・吉野川上流さめうら湖>

四国の水がめ「早明浦ダム」は、2町1村にまたがっており、最上流地域の「大川村」は、人口約360人(2022年6月時点)、村内に小中学校(併合)が1校しかなく全校生徒数は28人、とても小さな村です。この度、その村の集落活動センター「結いの里」と地元青年団等がさめうら湖を活用して地域活性化を図ろうと本件を提案し、シーバードさめうらも協同体制で行いました。

プログラムは、まず、安全に楽しむための注意点を確認し、水上オートバイでのレスキューデモを見ていただきました。それから、隊員と共に水上オートバイに乗り、乗船・操船体験だけでなく、隊員のお仕事体験(湖上パトロール)もしていただきました。パックラフト(ゴムボート)にもチャレンジ。初めは緊張していた子ども達も終盤には積極的に挑戦していました。



閉会式では、子ども達一人一人が感想を発表。「免許をとってシーバード隊員になりたい!」という子も! 将来が楽しみです! 保護者達からは、我が子の成長ぶりに喜びの声。そして、「若い隊員が多くて素晴らしい。地元の若者が活躍している姿に感動した」との感想もありました。

コロナ禍の影響もあり数年は実践の機会が少ない状況でしたが、隊員からは、「先輩隊員との日頃の連携活動でチーム力は問題なかった。この行事をとおして自分自身も更に成長できた。関係者や地域の方々に心から感謝します」とのコメントもありました。直前の台風14号の影響による水温低下、やや水も濁っており、プログラムの一部を変更することとなりましたが、教育委員会や社会福祉協議会、地元消防団員の方も見学に来ていただき、水辺の遊びのリスクと水上警備の必要性等に関する理解も深まり、隊員のスキルアップにもつながる有意義なイベントになりました。



■シーバード伊万里・有明～「ゴミ取って遊ぶ!」

<9月25日(日) 伊万里湾いまりんビーチ>

シーバード有明との合同で実施しました。テーマは「ゴミ取って遊ぶ!」当日は、佐賀県内の親子を対象に61名の参加がありました。初めての海!初めての船!初めてのバイク!に少し不安そうでしたが、ライフジャケットの有効性を学んで実際に海に出てみると、初めて海に来たというお子さんは怖がっていたものの、ライフジャケットで安心感を得たようで、水上オートバイにも勇気を持って挑戦していました。一度乗ってみると「楽しかー」と言いながら何度も水上オートバイに乗っていました。ライフジャケットの必要性から始まり、海上に浮遊するゴミ拾い、バイク体験から紙芝居と楽しんでくれました。

■シーバード田ノ浦～海の安全教室～

<9月24日(土) 大分市田ノ浦ビーチ>

『シーバードデイ2022～海の安全教室～』を開催しました。大

分海上保安部と大分地方気象台のご協力のもと「海の安全教室」で水難事故を未然に防ぐための取組みとともに、水上オートバイの体験乗船やSUP体験会を通じて海の楽しさを実感できるプログラムとしました。

自作チラシやホームページで募集した結果、50名(大人32、小学生以下18名)の参加があり、水上オートバイ体験乗船、海岸&水上清掃、海の安全教室、水上オートバイレスキューデモンストラーション、SUP体験会のプログラムに加え「Kids SDGs アカデミア」も同時開催し、大いに盛り上がりました。

参加者からはライフジャケットの重要性が実感できた、ライフセーバーによる安全管理がされていること、日頃経験できないことが経験できて楽しかったまた参加したいとの感想をたくさんいただきました。非日常を体験することで大人から子どもまでとても楽しんでもらえたと思います。

大分県水難救済会:共催・運営サポート、大分海上保安部:海の安全教室の実施、大分地方気象台:津波フラッグの普及啓発、大分環境保全フォーラム:Kids SDGs アカデミア(海の環境啓発イベント)のご協力に御礼申し上げます。当日放送局2社の取材があり、シーバード活動を周知できました。次回は、SNS等をもっと有効活用して参加者の増員を図るよう意識したいと思います。



# 次世代人財育成プログラム (特殊小型船舶免許取得サポート)

拠点活動の継続とさらなる活性化を目的に、主に30歳代以下を対象として水上オートバイ操船免許の取得サポートプログラムを展開。本プログラムを活用して免許を取得した方は、年10日以上3年継続を目安に拠点活動に積極的に参加し、水上オートバイの操船技術の向上に努めることを条件としています。18拠点から申請を受け進行しています。



◆申請一覧

地域	拠点	年齢*	地域	拠点	年齢*
北海道	シーバード小樽	33	静岡県	シーバード相良	23
岩手県	シーバード釜石	45	山口県	シーバードコバルト	(19)
宮城県	シーバード気仙沼	(45)			26
新潟県	シーバード佐渡	(54)	愛媛県	シーバード松山	22
千葉県	シーバード水の郷さわら	31	高知県	シーバードさめうら	21
神奈川県	シーバード館山	50	福岡県	シーバードむなかた	24
	シーバード小網代	(24)	佐賀県	シーバード伊万里	27
		23	大分県	シーバード田ノ浦	21
	シーバード葉山	(25)	宮崎県	シーバードトッ葉	(22)
	シーバード西浜	19	鹿児島県	シーバードかごしまiso	(37)

◆申請20名の内訳

■年齢		■性別	
平均	29.6歳	女性	7名
最高齢	54歳(佐渡)	男性	13名
最年少	19歳(西浜/コバルト)		

\*年齢表記の( )は女性の参加者です



# シーバード拠点発信の広報実績

シーバード各拠点から4月に提出された年間活動計画に基づき、実施後に送られた活動レポート集計数をご紹介します。  
2022年10月10日現在、シーバード日の報告を除いて、活動レポート送信の最多はシーバード釜石(岩手県)の10回でした。

## ◆拠点活動レポート発信数 ベスト3

2022年単年度の活動レポートでは、シーバード釜石から5月2回、7月3回、8月5回の計10回発信されています。マリンシーズンの長さでは、決して有利な環境ではありませんが、レポート内容と発信数からも地道に活動取組んでいただいている実体がうかがわれます。

回数	拠点
10回	シーバード釜石(岩手県)
6回	シーバード水の郷さわら(千葉県)
5回	シーバード富津(千葉県) / シーバード伊万里(佐賀県)

## ◆シーバードジャパン公式サイト掲載回数ベスト3

シーバードジャパン公式サイトでの2019年からの掲載件数集計では、シーバード富津が22回と1位でした。

回数	拠点
22回	シーバード富津(千葉県)
18回	シーバード葉山(神奈川県)
16回	シーバード千代田(群馬県)

シーバードジャパンでは、拠点皆様からのレポートを活用して広報発信の充実に取り組んでいます。引き続き、レポート、写真のタイムリーなご提供をお願いいたします。



## シーバードジャパン本部広報活動

● ボートショー ● マリンカーニバル ● UMI協議会主催事業協力 ● 防災関連催事出展

### ■シーバードジャパン本部 主な広報関連活動

シーバードジャパンでは2022年度広報関連事業に取組み、俯瞰的視点で拠点活動を支援してまいりました。

催事への出展にとどまらず、海上保安庁(管区、保安部、保安署)、日本海洋レジャー安全・振興協会、JCI、日本マリン事業協会をはじめとするマリンレジャーに関連する諸団体とも交流を図り、シーバード活動への理解、支援を推進しています。

月	事業	地区	取組み概要
4	1-3	ジャパンインターナショナルボートショー	【出展】 水上オートバイ展示 / 会場パトロール
	22-24	関西ボートショー	【出展】 水上オートバイ展示
5	26-27	UMI協議会主催 メディア体験乗船会	【協力】 水上オートバイ体験乗船
6	4-5	九州ボートショー	【出展】 水上オートバイ展示
	9-10	防災・防災総合展	【出展】 関連団体情報・意見交換
9	17-18	マリンカーニバル神戸	【出展】 水上オートバイ展示
	24	シーバード日 複数拠点合同事業	【サポート】 水上オートバイ展示
10	14-16	関西フローティングボートショー	【出展】 水上オートバイ展示
	16	ビッグレスキュー神奈川合同訓練	【出展】 水上オートバイ展示
11	3-4	シーバードJAPANカレッジ西日本大会	【主催】 構成・運営
	17-18	同 九州大会	【主催】 構成・運営
12	1-2	同 東日本大会	【主催】 構成・運営

## ボートショー出展と体験イベント実施水域警備

マリン市場およびシーバード拠点活動が盛んな東西および九州地区における催事に出席し、シーバード活動の広報活動を展開しました。

### ●ジャパンインターナショナルボートショー2022

【会場】パシフィック横浜 / 横浜ベイサイドマリーナ (ともに神奈川県横浜市)

#### (1) 出展

パシフィック横浜会場に出展し、動画とパンフレットで、近隣出展者、および来場者に活動紹介を行いました。展示したシー



バード仕様の水上オートバイには子供たちが自由に乘れることとし、写真を撮るなどして賑わいました。初の試みとしてペットボトルで生物を正確に再現し、自然環境保護活動に取り組む作家・本間ますみ氏の作品を展示し、ゴミ、特にプラスチックゴミの削減、自然環境保全活動をPRしました。

#### (2) 水上オートバイによる警備

主催者実施プログラム(小型ヨット、カヌー、SUP、ゴムボート)の安全運営のために、シーバード仕様水上オートバイ2台で水域警備に当たりました。会期中には日本海洋レジャー安全・振興協会のアンバサダーに就いた「船博士ちゃん」も水上オートバイに乗船しパトロール体験をしました。

(協力拠点:シーバード館山、富津)

#### (3) 棧橋警備

多数の来場者で賑わう棧橋からの落水防止、事故対応のためにボートショー展示エリアの棧橋にシーバード隊員(救急救命技術所有者)を配置しました。混雑前にお声がけし注意を促し、事故なく終えました。

(協力拠点:シーバード葉山、西浜 / 逗子サーフライフセービングクラブ)

### ●地域ボートショー(関西・九州)

#### 関西ボートショー 関西フローティングボートショー

シーバードジャパンは、マスコミ報道によって注目度の高い水域となっている関西方面での広報発信を目的に、春、秋にボートショーに出展しました。

4月22日(金)から24日(日)「関西ボートショー2022」および10月14日(金)から16日(日)のとも3日間で、会場の新西宮ヨットハーバー(兵庫県西宮市)では、第5管区海上保安本部、国土交通省・神戸運輸監理部と並んだテントに、シーバード仕様の水上オートバイの展示を中心に、活動紹介ビデオ放映、PWCで記念写真を撮った方に、ましがいさがしカードやパンフレットを手渡し、活動PRを行いました。

(協力拠点:シーバードあわじ、富津)



#### 九州ボートショー

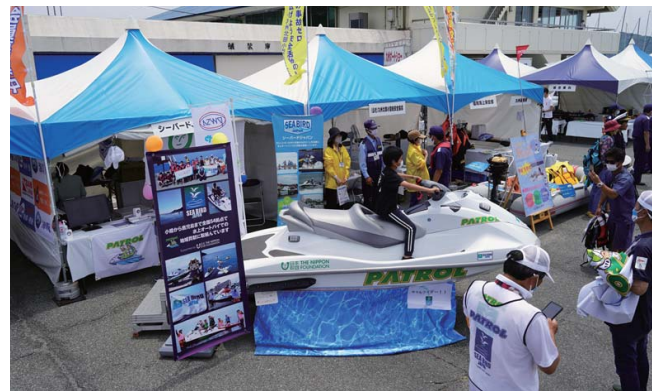
シーバードジャパンは周知広報を目的に、6月4日(土)、5日(日)、福岡市ヨットハーバー(福岡県福岡市)にて開催された「2022九州ボートショー」に出展しました。

二日間で約2200名が来場、シーバードジャパンのブースにも多くの家族連れが来訪し、隣接ブースの九州運輸局、福岡海上保安部、九州北部小型船安全協会とともに、安全第一、事故ゼロをPR。展示した水上オートバイには約80名の子供たちが乗って、写真撮影を楽しんでいました。

シーバード出展・運営に参加したシーバード伊万里の古川洋氏(日本青バイ隊理事)は「ボートショー会場への出展展示された水上オートバイはシーバードの1艇でしたが、安全、安心とともに、水上オートバイの魅力をお伝えできたと思います。これから本格シーズンになりますので、コロナ感染防止に







も十二分に対応し、9月のシーバードデイには事故ゼロの報告ができるように取り組んでいきます」と結んでくれました。(協力拠点:シーバード伊万里)

### ●マリンカーニバル神戸

2シーバードジャパンでは、9月17日(土)、18日(日)の二日間にわたってマリピア神戸(兵庫県垂水)にて開催された「マリンカーニバル神戸」に出展し、陸上展示の水上オートバイでの記念撮影などでPR活動を行いました。台風14号の影響でポート体験等のプログラムは中止されましたが、シーバードテントには多数の親子での来訪が続き、水上オートバイにまたがってのライダー気分を楽しんでいました。

テントブースでは水上オートバイ展示、神戸運輸監理部、第五管区海上保安本部、UMI協議会等とも協力して、事故報道等で広がるマイナスイメージを払拭し、水上オートバイを用いたシーバード活動の周知に取り組みました。

(協力拠点:シーバードあわじ)



2022ミス日本 海の日 属 安紀奈さんとママ釣りタレントの石崎理絵さんも来訪

### ●防犯防災総合展

シーバードジャパンは、6月9日(木)、10日(金)の二日間にわたって、インテックス大阪(大阪府)で開催された「防犯防災総

合展2022」に出展しました。本イベントは文字通り、防犯防災にかかわる製品の展示や活動を紹介するもので、第五管区海上保安本部や大阪府消防局などシーバード活動との連携が見込まれる公務救難機関も多数出展されています。

【来場者数】11,962人

【出展者数】116社・団体 150小間



シーバードジャパンでは、そうした関連団体ブースを訪問し、最新プロフィールなどを配布し、活動のPRと情報交換に努めました。インテックス大阪では、福祉機器展、ロボット展など複数のイベントが同時開催されていて、ブースにはそうした目的での来場者も多数訪れ、活動紹介のビデオを興味深く見入っていました。

またドローンを扱う出展者からは、シーバード活動の詳細を聴かれ、将来的には救助活動の大切なツールになることを実感しました。

防犯防災というテーマの展示会において、シーバードジャパンの存在は異種ではありましたが、災害に対する一般社会の関心の高さや、さまざまな事業者があることなどを知る機会となり、またそうした分野との情報交換ができ、有意義な二日間となりました。

(出展・運営協力:日本青バイ隊、シーバードあわじ)

### 新機軸 異なるジャンルの団体との連携 UMI協議会主催事業への協力

シーバードジャパンでは5月26日(木)、若洲ヨット訓練所(東京都江東区)にて開催された、UMI協議会主催の「海イコメディアマリン体験会」にシーバード館山、富津の二拠点の協力のもとに参加しました。



UMI協議会はパーソナルウオータークラフト安全協会やボートショーを主催する(一社)日本マリン事業協会やサーフィン連盟などで構成される団体です。

シーバード富津、シーバード館山は、水上オートバイでの溺者救助デモと参加者の体験乗船プログラムを実施しました。初夏の陽気のもと、釣り好きタレントの前田敦子さんがボート操船もするというのもあって、マスコミ19社39名の取材があり、水上オートバイの特性やシーバード活動を広くPRすることができました。本格海水浴シーズンを前に、事故ゼロを目標にパトロールを軸に取り組んでいくという思いを強くしました。

(協力拠点:シーバード館山、富津)

### ミス日本協会との連携で

ミス日本協会主催コンテストのファイナリストには三つの美、すなわち「身体」「精神」「行動」の美を習得するための約30もの講座受講が義務付けられています。受賞者は「行動」における取組が継続的に実践されています。

シーバードジャパンではその理念とSDGsの取り組みに賛同し、同協会と連携していっそうの社会貢献の成果拡大を目指すこととしました。水上オートバイのポジティブな側面を、メディアを通じて広く社会に発信する好機になります。その先例として2022年度は「UMI協議会主催事業」、「シーバードデイ2022福岡」での連携を実現しました。また同協会理事でありコンテスト大会委員長を務める和田あい氏にはシーバードJAPANカレッジ2022の基調講演をお願いしています。

今後はシーバードデイを軸に、みなさまの拠点と企業・団体、また近隣シーバード拠点との合同事業を中心に、ミス日本協会との連携プログラムを行う予定です。

